

ワダム No.3

だより

2017年10月10日発行

発行人



特定非営利活動法人
ワダタイム
理事長 茨澤一郎

TEL: 026-247-2033
(特定医療法人 新生病院)

皆様からたくさんのエールを頂き、様々な活動を行ってきました。

環境・交流事業

第26回緑化フェスタ開催！

2017年5月20日（土）に開催しました「第26回緑化フェスタ」には約30名のボランティアの皆様にご協力頂きました。今回「第25回緑化フェスタ」で鉢植えをしたメイプルの苗を路地に植え替え、苗木のプールを耕作しました。また、新生病院の敷地で育てているメイプルの木の根元の草取りと、害虫予防のための消毒薬を撒くとともに幹の消毒も行いました。当日は気温がぐんぐん上昇し非常に暑い中での作業となりましたが、今回初めて参加してくれた小学生のボランティアさんは「楽しかった！」と感想を述べてくれ、今後も続けて参加して頂きたいと強く願いました。これから続くメイプルの森の創生を夢見ながら地域の皆様とともに歩んで行けたらと思っています。



▲幹の消毒の様子

次回「第27回緑化フェスタ」は⇒11月18日（土）開催予定です。

歴史・理念伝承事業

新生病院の歴史を改めて感じる出来事

2017年4月、1956年（昭和31年）に新生療養所（現在の新生病院）に結核で入院していたという90歳の金森昭さんとそのご家族がミスパウル記念館の見学でお見えになりました。「私が入院中、病院を抜け出して松川のほとりで遊んでいたときがあつてね、それをミスパウル（新生病院第2代看護師長）に見つかったときはひどく怒られましたよ」と貴重なエピソードも教えて頂きました。60年以上前の結核療養所時代をご存知である金森さんの貴重なお話を聞くことができ、新生病院が積み上げてきた歴史の重みとたくさんの方々で温めてきた絆の深さを改めて感じる出来事でした。



ミスパウル記念館情報

現在「ミスパウル記念館」は移築工事を行っており、2018年3月に竣工予定です。移築の様子につきましては随時HP等でご報告していきます。



▲現在の様子

今年度、度重なるテロ等の影響を受け継続的なバングラデシュ現地への医療協力は叶いませんでしたが、2017年1月18日（水）～2月27日（月）まで、海外医療協力の一環としてバングラデシュより整形外科医のニシャット先生を新生病院に受け入れ、主に整形外科・形成外科の手術、病棟回診、外来診療や処置の見学研修を行いました。



ニシャット先生の紹介

バングラデシュのダッカ出身 30 歳。ダッカ市内の山形＝ダッカ友好病院に整形外科医として勤務し、同じく医師の奥様とお子さん（男の子）の 3 人家族。イスラム教を信仰し、毎日数回あるお祈りは工作中でも欠かしません。地域の社会人クリケットチームに所属しているが、仕事が忙しく試合や練習に出られないのが悩み。

今回の研修に対するニシャット先生の思い

ニシャット先生は「助けを必要としている人を助けたい」という想いのもと、医療活動に従事されています。バングラデシュでは、高校卒業後に工学・商学・医学の道に進むため大学に進学されるそうですが、ニシャット先生は医学の道を選ばれました。「今までお医者さんにたくさん助けられた。次は私の番」と語っており、その思いが先生をこの道へ進ませるきっかけとなったようです。「日本に来ることがずっと夢だった。日本はすべての分野で優れている。医療も同じ。だから日本で学びたかった」と先生は語ります。先生の勤務先である山形＝ダッカ友好病院に勤めれば日本へ行けると考え、今までいくつもの仕事のオファーを断ってきたそうです。新生病院での研修を通して、日本の病院ではどのように人々が働いているのかを学びたいとのことでした。

ニシャット先生日本での生活

イスラム教を信仰されているのでアルコール、アルコール含有の調味料（みりんなど）、ハラールフード以外の動物や鳥の肉・エキス（チキンコンソメなど）等を使った料理は食べられませんが、魚肉、鶏卵、牛乳、それらから作られたもの（おでん、チーズ、バター、植物性油脂のマヨネーズなど）は食べることができます。そのため研修中の食事は自炊が基本で、料理が得意なニシャット先生は自国から各種スパイスを持参されていました。また IT 機器を巧みに使いこなし、日本での買い物はスマホの翻訳アプリが大活躍！スーパーで原材料の日本語を翻訳し、食べられないものが入っていないかきちんと確認して購入されていました。

歓迎会・歓送会

2017年1月27日（金）にはニシャット先生の歓迎会を行い27名が参加。また2月22日（水）は病院の医師及び職員計20名が参加し、レストラン「メイプル」にてニシャット先生の歓送会が行われました。歓送会ではお食事会やニシャット先生作成のスライド「日本の私の日々」の披露があり、先生が初めて体験した日本の文化（お茶席など）、ウィンタースポーツ（スキーなど）、観光地巡り（野猿公苑、戸隠、善光寺など）など研修以外に体験できたこと、楽しかったことを中心に、エピソードを交えながら披露されました。



▲「歓送会」メイプルにて



▲善光寺で記念撮影

新生病院での研修の記念として、ニシャット先生のお名前「ニシャット」に漢字「仁謝人」をあてた認印をプレゼントしました。「仁謝人」に込められた意味も、カードにしてお渡ししました。「仁」には「思いやり」、「愛情」という意味が込められています。「謝」には御返しや、「言葉を射る」ことによって心の緊張をほぐすということ、そして「感謝」という意味も込められています。「人」には、新生病院が大切にしている「全人医療」にかけて、ニシャット先生が医師としてバングラデシュで働かれる際には「全人医療」という言葉を心に留めて医療に取り組んでほしいという想いが込められています。



研修修了式

2月24日(金)、新生病院大会議室にて研修修了式が行われました。ワンタイム理事長の渋澤一郎主教から修了証が授与され、「手術、外来診療、病棟回診などを通して、多くのことを経験し、学んでいただけたのであれば、この研修受け入れを企画したワンタイムの理事長として大きな喜びです。バングラデシュに戻られても、今回のたくさんの経験と学びを生かして、多くの患者様やご家族様の幸せのため、医師としてのお仕事に志と誇り、また夢を持って歩んでいただけますようお願いしています」という言葉が贈られました。また、ニシャット先生によるスピーチも行われました。温暖なバングラデシュに比べ、冬場は大変寒い小布施の地ですが「人々の愛が私を温めてくれた」と語られました。また、研修に関わったメンバーに感謝を述べ「この数週間は私の人生で最も良い時のひとつ」であり、もしバングラデシュを訪れることがあれば「皆さんを歓迎します」とのスピーチで締めくくられました。

ワンタイムの想い

ワンタイムでは今回の現地医師の研修受け入れを通して、日本の医療を自身の目で見て、肌で感じて、バングラデシュでの医療との違い、どうして違うのかなどを振り返り、その全てを貴重な財産にしてほしいと願っています。そして今回得た知識や技術は持ち帰り、現地の患者さんのためになる事は出来ることから試していただけたらと思います。

また、ニシャット先生が勤務している山形＝ダッカ友好病院のラーマン院長と、農村地域のカウンターパート病院であるジョイラムクラクリスチャン病院のレマ院長には、ニシャット先生をジョイラムクラ病院に定期的に派遣し、医師が不足している整形外科の手術、診療のサポートにあたって頂けるよう具体的な体制づくりをお願いしています。ジョイラムクラ病院では、現在週1回ダッカから麻酔医が来て毎週月曜日に全身麻酔下での手術（主に外科・産婦人科など）を行っていますが、同じようにニシャット先生が定期的に来て、整形外科の手術・診療をサポートすることができれば、現地の医療ニーズを少しでも満たすことができるのではないかと期待しています。

ネパール海外医療派遣へのご協力をお願い致します

NPO 法人ワンタイムは、カナダ聖公会、そして宮崎先生ご夫妻が行ってきた海外医療協力、そしてその思いと願いをつなぐ具体的な行動のひとつとして、ネパールで医療協力を行うことを決意し現在準備を進めています。この活動にご支援頂けます場合は「ワンタイムだより」に添付の専用お振込用紙「ネパール海外医療協力」箇所に支援金額をご記入いただくか、ワンタイムホームページの「2017年度ネパール医師派遣」プロジェクトをお選びください。ぜひとも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

詳細な情報は
別紙「ネパール海外医療協力について」をご覧ください

ワンタイム活動報告・活動予定

ボランティア総会・交流会



2016年12月3日(土)「ボランティア総会」が小布施町千年樹の里健康福祉センターで行われました。ワンタイムをはじめとする、新生病院で活躍中のボランティアの方々にお集まり頂き2016年度の活動を振り返ると共に、次年度の活動予定等をご報告しました。その後行いました交流会では、ボランティアの皆様の日頃の活動に感謝をお伝えし、和やかなひと時となりました。

2016年度(平成28年度)収支報告

2016年度は、合計142件の募金があり、

5,070,689円が集まりました。

たくさんのご支援、誠にありがとうございました。

科目	金額(円)
収益	6,692,609
支出	4,162,563
収支	2,530,046

2017年度(平成29年度)活動予定

【海外医療協力・被災地支援事業】

★2018年(予定)に医師の本派遣を行うための小規模の調査派遣として、2017年12月にネパールへの医師派遣を予定しています。(詳細は別紙「ネパール海外医療協力について」をご覧ください)

【歴史・理念伝承事業】

★これまで歩んできた歴史を後世に伝えていくため紙媒体資料の収集や整理を行い、集めた資料をファイルやアルバムにまとめ、スタートハウス記念館に保存していきます。また、現在移築工事中のミスパウル記念館は、ゲストハウスとしても運営していくため運営計画の作成等もすすめています。

【環境・交流事業】

★5月に「第26回緑化フェスタ」、6月に「緑化の日」を開催しました。メイブルの森づくりや地域の方々との更なる交流をすすめるべく、さらに6回の「緑化の日」や11月18日(土)「第27回緑化フェスタ」の開催を予定しています。

ワンタイムの継続的な活動へ皆様のお心をお寄せください

NPO法人ワンタイムでは、皆様に活動へのご支援・ご協力をお願いしております。皆様から頂いた「ワンタイム」へのエールは、諸活動のため大切に使用させていただきます。わたし達の活動にご理解頂き、引き続き力強いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

お振込口座はこちらへ

- ①ゆうちょ銀行 小布施郵便局 振替口座 00560-0-102562 特定非営利活動法人ワンタイム
- ②八十二銀行 小布施支店 (普) 227507 特定非営利活動法人ワンタイム

ホームページからのご寄付はこちらへ

<http://onedime.newlife.or.jp/recruit/index.html#02>



QRコード

ネパール海外医療協力について

募金のお願い



2017年12月25日～2018年1月4日

ネパールへの海外医療派遣が決定しました！

この度、NPO法人ワンタイムはバングラディッシュ以外の派遣先として、ネパールへの医療協力の道が拓かれ、初めて医師団を派遣することとなりました。ネパールは、日本から約5100キロの距離にあり、海拔70メートルの「タライ地方」、国土の大半を占める「丘陵帯と低山ヒマラヤ」、エベレストを擁する「上部ヒマラヤ」の三つの地域からなる美しい国家です。また、この美しい国に住む人々は、とてもやさしい国民性を持つことで知られています。しかしその地形的特殊性、政情の不安定さ、それらも含めた様々な要因からなる経済的な課題を抱え、それゆえ多くの国民が医療を受ける困難を抱えています。

私たちのネパールでの活動の「第一歩」は、決して大きな規模のものではありませんが、私たちのこの小さな「第一歩」を「祈り」そして「様々な形でお支え」いただきますようお願いいたします。



医療協力派遣先・行程

【協力先】
ネパール中西部ルクム郡 チョウジャリ病院
(首都カトマンズから飛行機を乗継、自動車で8時間)

【行程概要】
12/25 (月) 深夜、羽田空港発→ネパールの首都カトマンズへ
12/26 (火) 首都カトマンズにて、ネパール政府の面接
12/27 (水) カトマンズ→チョウジャリ病院へ
12/28 (木) ～2018/1/1 (月) チョウジャリ病院にて医療協力活動
2018/1/2 (火) チョウジャリ病院→カトマンズへ
2018/1/3 (水) カトマンズ→羽田空港へ
2018/1/4 (木) 早朝、羽田空港着



派遣医師団

* 派遣団メンバー五十音順



団長：外科
宮尾陽一 医師



整形外科
酒井典子 医師



歯科
酒井洋徳 医師



整形外科
榊原政裕 医師



形成外科
寺島左和子 医師



ネパール医療事情と活動目的



ネパールには日本のような国民皆保険制度がなく、**医療費は原則全額自費**。国立病院は治療費は無料（医薬品代・医療材料代・入院費等は自費）だが、医療資源が首都カトマンズに集中しており、地方ではその恩恵は享受できない。チョウジャリ病院の位置するルクム郡は、**人口40万人に対して有床病院はチョウジャリ病院（50床+臨時病床15床）ひとつのみ**。

都市部と地方との経済格差、医療格差が非常に大きく、チョウジャリ病院は公的病院（日本でいう県立病院に相当）であり治療費は無料ではない。医療費が概して高額、しかも受診時の前払い制が徹底されており、治療や処置、手術を受けるにも点滴などの医薬品、注射針や縫合糸などの医療材料を買って持参しなければ始めてもらえないため、**地域住民のほとんどは経済的な困難を抱えており、医療が必要でも受けられないのが現状**である。

また、公共交通機関が発達しておらず病院まで行くのに2~3日かかることもあり、付き添いの家族も含めて移動や宿泊に多額の費用が必要になること、その間患者本人も付き添いの家族も仕事にならず収入が減ることなど、病苦とともに病院受診という行為そのものが負担になっている。たとえ入院できたとしても入院費が払えないなど金銭的な困難から数日で退院してしまうため（平均在院日数2.5日）、術後管理が十分でなく、**感染症等のリスクが付きまとっている**。

今回ワンタイムが行うネパールでの海外医療協力では**地元のNPOである「HDCS（※1）」が活動の橋渡し役となつて、経済的困難から医療を受ける機会を失っている方々を対象に手術等の外科的医療の提供を計画している**。

※1...HDCS（Human Development Community Services）とはネパール人によるネパール人のための医療や教育等を行っているNGO



活動概要

- 内容**・・・整形外科、形成外科、口腔外科の手術、処置等
- 件数**・・・合わせて一日3~5件程度×4日間 = 20件程度の見込み
- 対象**・・・医療の必要があつても金銭的な国難があり医療を受けられずにいる患者の方々（提携団体HDCSが事前に患者を選択する予定）



活動経費

- 渡航経費 / 1,200,000円 240,000円×5名
 - 現地必要経費（滞在費、移動費等）
/ 378,000円 75,600円×5名
 - 事前調査費等 / 82,000円
 - その他医療協力経費
（医薬品、医療材料等） / 550,000円
（持参医薬品、医療材料） / 30,000円×5名
（患者負担医療費補助概算） / 20,000円×20件
- 合計 = 2,210,000円**

【募金目標】 1,710,000円

（活動経費合計 - 医師の参加費500,000円
@100,000円×5名）

募金期間：2017年10月1日~12月20日

募金の方法につきましては、付属の専用振込用紙にてお振込頂くか「ワンタイムだより」又は「ワンタイムホームページ」にてその他振込方法をご確認ください。

皆様のあたたかいご支援を宜しくお願い致します。